

別紙標準様式（第7条関係）

会議録

会議の名称	平成30年度 第1回枚方市病院事業運営審議委員会
開催日時	平成30年6月8日（金） 15時00分から 16時20分まで
開催場所	市立ひらかた病院 2階 講堂
出席者	委員：田口委員・野口委員・岩本委員・福留委員・山口委員・ 堀井委員・藤本委員 病院：高井病院事業管理者・森田病院長・坂根副院長・木下副院 長・赤塚副院長・本合副院長・白石看護局長・岡市事務局 長他
欠席者	原委員、林副院長
案件名	1. 正副委員長の互選 2. 平成30年度市立ひらかた病院の運営方針について 3. その他
提出された資料等の 名称	・平成30年度市立ひらかた病院の運営方針について
決定事項等	・病院事業運営審議委員会について公開することに決定した。 ・正副委員長を互選により決定した。
会議の公開、非公開の 別及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表 の別及び非公表の理由	公表
傍聴者	—
所管部署（事務局）	市立ひらかた病院 事務局 経営企画課

審議内容	
○岡市事務局長	<p>本日、平成30年度 第1回 枚方市病院事業 運営審議委員会を開催させていただきましたところ、委員の皆様には公私何かとご多用の中、ご出席賜りまして誠にありがとうございます。</p> <p>本日は、今年度、最初の会議となりますので、臨時委員長を選出いただくまでの間、私、事務局長の岡市が、司会・進行を務めさせていただきます。どうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。</p> <p>まず始めに、委員の皆様のご紹介をさせていただきます。</p> <p>[委員紹介]</p>
○岡市事務局長	<p>以上で、委員のご紹介を終わらせていただきます。</p> <p>続きまして、本日出席しております職員を順次紹介させていただきたいと存じます。</p> <p>[職員紹介]</p>
○岡市事務局長	<p>以上で、職員の紹介を終わらせていただきます。</p> <p>続きまして、高井病院事業管理者よりご挨拶を申し上げます。</p>
○高井病院事業管理者	[高井病院事業管理者の挨拶]
○岡市事務局長	<p>それでは、臨時委員長の選出に移らせていただきます。</p> <p>本日は、今年度、最初の会議でありますので、委員長が選出されるまでの間、議会選出委員のうち年長の委員に臨時委員長の職務を行っていただきたいと存じますが、いかがでしょうか。</p> <p><「異議なし」の声 ></p>
○岡市事務局長	<p>ご異議がないようですので、本日出席の議会選出委員中、堀井委員が年長委員でございますので、堀井委員に臨時委員長をお願いいたします。堀井委員、委員長席にお着き願います。</p>
○堀井臨時委員長	<p>ただいま、ご紹介・ご指名いただきました堀井でございます。委員長が選出されるまでの間、臨時に私が委員長の職務を行います。ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。</p> <p>会議に先立ちまして、事務局から委員の出席状況について、報告を求めます。岡市事務局長。</p>
○岡市事務局長	委員の出席状況をご報告いたします。本日、ただいまの出席委員は、6名でございます。以上で報告を終わります。

○堀井臨時委員長	<p>ただいま報告がありましたとおり、出席委員は定足数に達していますので、これより平成 30 年度 第 1 回 枚方市病院事業運営審議委員会を開会します。</p> <p>それではまず、本会議の公開・非公開の取り扱いについてお諮りします。事務局から説明をお願いします。</p>
○山本経営企画課長	<p>本会議は、「枚方市審議会等の会議の公開等に関する規程」における、非公開とできる事項のいずれにも該当しないことから、事務局としましては、公開とさせていただきたいと考えております。</p>
○堀井臨時委員長	<p>事務局からの説明のとおり、公開とさせていただいてよろしいですか。</p>
	<p><「異議なし」の声 ></p>
○堀井臨時委員長	<p>それでは、本委員会は公開とさせていただきます。本日、傍聴希望者はいらっしゃいますか。山本経営企画課長。</p>
○山本経営企画課長	<p>本日、傍聴希望者はいらっしゃいません。</p>
○堀井臨時委員長	<p>それでは、これより案件第 1 「正副委員長の互選」に入りますが、委員長の選考・選出方法等について、ご意見をお聞かせ願いたいと思います。何かご意見等はございませんか。</p>
○福留委員	<p>田口委員にお願いしてはどうかと思います。</p>
○堀井臨時委員長	<p>ただいま、「田口委員に委員長を」というご意見がありました が、これにご異議ありませんか。</p>
	<p><「異議なし」の声 ></p>
○堀井臨時委員長	<p>ご異議なしと認めます。 よって、田口敬規委員が委員長に選任されました。 暫時休憩します。</p>
	<p>(暫時休憩)</p>
○田口委員長	<p>これより「副委員長の互選」に入りますが、「副委員長」の選考・選出方法等について、ご意見をお聞かせ願いたいと思いま</p>

	す。何かご意見等はございませんか。
○福留委員	山口委員を推薦します。
○田口委員長	ただいま、「山口委員に副委員長を」というご意見がありましたが、これにご異議ありませんか。
	<「異議なし」の声>
○田口委員長	副委員長には、山口委員に就任いただきたいと思います。 この後、委員会を再開し、指名推選により副委員長の互選を行いたいと思いますので、よろしくお願ひします。
○田口委員長	委員会を再開します。 これより「副委員長の互選」を行います。お諮りします。 互選の方法は、指名推選によりたいと思います。 これにご異議ありませんか。
	<「異議なし」の声>
○田口委員長	ご異議なしと認めます。 よって、互選の方法は、指名推選によることに決しました。 これより指名推選を行います。お諮りします。 指名推選の指名者は、委員長にしたいと思います。 これにご異議ありませんか。
	<「異議なし」の声>
○田口委員長	ご異議なしと認めます。 よって、指名推選の指名者は委員長によることに決しました。 副委員長の指名を行います。 副委員長に山口勤委員を指名します。お諮りします。 ただいま、委員長において指名しました山口勤委員を副委員長の当選人と定めることにご異議ありませんか。
	<「異議なし」の声>
○田口委員長	ご異議なしと認めます。 よって、ただいま指名しました山口勤委員が副委員長に当選されました。 それでは、正副委員長の就任に当たりまして、代表して一言

	<p>ご挨拶を申し上げます。</p> <p>委員の皆さんのご推举により、ただいま委員長に選出いただきました田口でございます。</p> <p>今年度の枚方市病院事業運営審議委員会の運営を担当する機会をいただき、大変光栄に思っております。山口副委員長と協力し、円滑な委員会運営に努めてまいりますので、なにとぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>簡単ではございますが、就任の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。</p> <p>これより、案件第2「平成30年度市立ひらかた病院の運営方針について」を議題とします。なお、本日の会議については、1時間程度と考えておりますのでよろしくお願ひします。</p> <p>それでは、事務局より説明を求めます。山本経営管理室長。</p> <p>○山本経営管理室長</p> <p>案件第2「平成30年度市立ひらかた病院の運営方針について」お手元の資料に基づき、ご説明させていただきます。</p> <p>本院は、北河内二次医療圏における唯一の市立病院として、救急医療や小児二次救急、災害時医療など、公立病院としての役割を担いつつ、基本理念として掲げる「心のかよう医療を行い、信頼される病院」のもと、質の高い医療を提供することで、地域への貢献に努めているところです。</p> <p>一方で、現在の本院が非常に厳しい経営状況に置かれていることを踏まえながら、平成30年度については、以下の方針で、これまで以上に積極的に経営の健全化に向けた取り組みを進めて参りたいと考えております。</p> <p>まず、大きな経営健全化に向けた取り組み方針として、本院は厳しい経営状況の中、病床稼動率が思うように向上しておりません。こうしたことから収益の中で、入院収益の向上が特に必要と考えております。予定入院については、「地域連携の強化」を、また緊急入院については、「救急患者の受入れ促進」を、この二つを取り組みの二本柱として、平成30年度は積極的な取り組みを進めてまいりたいと考えております。具体的な目標数値ですが、地域連携の強化として紹介率55%、救急患者の受入れ促進として応需率85%、特に日中は100%、という目標数値を掲げています。</p> <p>こうしたことでも、入院患者を増加させ、効率的な病床回転により、病床利用率85%という目標数値を掲げて取り組みを進め、収益の増加を図ってまいりたいと考えております。</p> <p>それぞれの具体的な項目について説明させていただきます。</p> <p>先程から申し上げている取り組みの二本柱ですが、一点目が</p>
--	---

「地域連携の強化」でございます。かかりつけ医からの紹介をいかに増やしていくかが、重要であると考えております。これまで紹介患者の増加に取り組んでおりましたが、今年度は更なる取り組みとして4点を行います。

まず「訪問計画の策定」でございます。これまで以上に詳細で、綿密な計画を策定して各診療科を訪問していくものです。

次に「訪問回数の増」というもので、これまで以上に積極的に訪問を行っていくものです。

また「訪問範囲の拡大」というもので、これまで訪問していた病院以外にも、市外の病院にも営業活動を行っていくものです。

最後に「訪問する職種の拡大」ですが、これまで訪問するのは、医師と事務職員というのが基本でしたが、これに看護師や医療技術職など各専門の職種も併せて訪問に行くことで、各診療所と顔の見える関係を築いて、紹介患者の増加に繋げていく取り組みを行ってまいります。

続いて取り組みの二本柱の二点目が「救急搬送患者の積極的な受け入れ」です。このことにつきましては、平成28年度に本院への救急搬送患者数が落ち込みを見せており、こうした危機的な状況を踏まえ、平成29年度から受け入れの取り組みを続けてまいりました。この結果、応需件数1,079件と応需率16.4%それぞれ上昇しております。

しかし、まだ十分とは言えないため、更なる受入促進の取り組みを行っていきたいと考えております。目標として掲げる、応需率85%、日中は100%の目標を達成するため、様々な取り組みを行ってまいりたいと考えております。現在検討している一つの例として、今まで救急患者が搬送されたら、まず救急外来へ、そこから必要に応じて入院としていましたが、各病棟に救急患者対応の専用の部屋を造ることによって、救急外来で複数の患者が来たときに対応できないというようなトラブルを軽減し、スムーズに入院へ繋がる仕組みをつくり、入院患者の増加に繋げてまいりたいと考えております。また、応需率だけでなく、今以上の応需件数となるよう、救急隊との連携にも努めてまいりたいと考えております。

以上が今年度、集中的に取り組んでまいりたいと考えております、二本の柱です。

続きまして、その他の取り組みとして、医師の確保を考えております。ご覧いただいている資料は大阪府内の病床数が300床台の本院と同等規模の病院を比較したものですが、常勤の医師数を比較すると本院が明らかに少ないことが伺えます。これに比例して、手術件数及び収益が低く留まっていることが言えるかと思います。医師の数が収益向上に欠かせないということ

ですので、これまで以上に積極的な医師確保へ向けた取り組みを進めてまいりたいと考えております。

続きまして、外部コンサルタントの導入についてですが、病院の経営改善について今年度から新たに外部の意見をお聞きしてまいりたいと考えております。一般的には、意見を聞いてアドバイスを送るような、アドバイザー的な立場のコンサルタントかと思われるのですが、今回本院が導入しようとするコンサルタントは、現場に入って直接的な指示を行い、成果を見て評価をするという一連のサイクルを行っていただく、より直接的な指導ということで、実行支援を伴う新たなコンサルタントの方に現場に入っていただきて経営改善についてご活躍いただけたいと考えております。

次に病床利用率の向上についてですが、空いているベッドについては、これまで病棟の中で調整しておりましたが、新たに各病棟を一元的に管理して、医師にも指示を出すような病院全体を見ながら指示を出す「ベッドコントロールチーム」を新たに作りました。こうして無駄に空きのベッドが生じないような調整をしていきたいと考えております。

次に新たな試みですが、「入退院支援センター」の導入を考えております。これは入院時に患者さんと面談を行って、様々な形でオリエンテーションを行うことによって、病院と患者さんの双方のメリットを活かしてまいります。スムーズな退院、退院後の外来、地域、在宅へスムーズに紹介等についても速やかに行なえるよう、入院時に面談を行なう仕組みとして、「入退院支援センター」を導入してまいります。

その他にも職員の意識改革も重要であり、新たな形づくりとしてお示しさせていただきます。まず、副院長の責任担当業務性を導入し、その役割と責任の明確化することにより、経営改善を進めてまいりたいと考えております。

また、厳しい経営状況の中、昨年、平成29年度に緊急経営改善チームを立ち上げました。これは、副院長をチーム長として、医師、看護師、事務局という職種をまたいで、様々な経営改善の取り組みを検討するものです。今年度、新たに薬剤、検査、放射線、リハビリの職員も加わり、病院全体で経営改善を取り組んでまいりたいと考えております。

また、病院の中ですが、3月に作った「柱のポスター」ですが、こちらを各職場に張り出しまして、経営意識の醸成を図っております。

また、「経営改善のためのスローガン」を募集し、職員がそれぞれ経営改善を考えて提案することをしました。

この他、本院としては、公立病院の役割もありますので、災害

	<p>医療、小児救急 365 日受入れ、医産連携事業への参加、情報発信の強化、関西外国語大学との連携活動などに積極的に取り組みまして、患者様から選ばれる病院となるよう、地域の活性化にも取り組んでいきたいと考えております。案件についての説明は以上でございます。</p>
○田口委員長	<p>これより、ご質問・ご意見をお受けします。 ご質問・ご意見はありませんか。 堀井委員。</p>
○堀井委員	<p>資料に「病院経営の健全化には、入院収益を向上させることが特に必要であることから、患者数を増やし・・・」と書かれているのですが、市民を病気にすることが、病院の収益を上げる目的であるという、この文言は公的病院でもあるので、文言を変えていただきたいと思います。患者数を増やすなければならぬという考え方を排除していただきたい。また、人口減少とか開業医の増加の関係で、患者数が減少しているということはないのですか。</p>
○森田病院長	<p>「患者数を増やす」という言葉ですが、確かにおっしゃるとおりで、市民が健康で患者数が減れば良いのは、そのとおりだと思います。具体的に患者が減っているのかということですが、新病院開院後、患者数は増えています。平成 28 年は、1 か月の平均で新しく入院されてくる人数は 642 人でした。平成 29 年は、それが 706 人に増えました。平成 30 年は 1 月から 5 月の数字ですが、759 人と新入院患者数は増えています。入院患者数は増えていますが、診療報酬などの関係で収益を上げていくのが難しい状況になっています。</p>
○堀井委員	<p>この文言だけは、直していただきたいと、切にお願いします。新病院開設後、一応患者数が増えているということであれば、経営がおかしくなるというのは、どこに問題があるのかということです。かつての院長がおっしゃっていたられたことですが、簡単に言いますけど、医者は一生懸命やって儲けているが、扶養家族が多すぎるため、病院経営を悪くしている、という主旨のことでした。そういう荒っぽい言い方ではありませんが、じっと聞いているとそういうことでした。その辺りが問題であり、考えていかなければならないのではないかと感じます。</p> <p>それから、医師の確保ができれば、収益が上がるということですが、なぜ医師が足りないのか。また、医師を確保しようとすれば、現在のひらかた病院の給料では低すぎるので、給料を上</p>

	<p>げないと来てもらえないと思います。扶養家族の給料を下げて、医師の給料を上げないと、良い医師は来てくれないと私は思います。いかがでしょうか。</p>
○森田病院長	<p>医師確保について、大阪医科大学とも交渉を続けており、徐々に医師は増えていますが、まだまだ足りない状況です。特に消化器系統は、枚方市内で吐血や下血の対応が難しいので、本院としても人員の充実を図っているところです。</p> <p>医師が増えれば収益が増えるというのは、一般的に医師が一人増えれば、収益が 1 億円くらい増えると言われており、先ほどの表を比較して見ていただくとわかるのですが、本院と比べて 30 人位医師数が多い病院は、大体ではありますが収益も 30 億円多いことがわかります。なぜかというと、人手に余裕があると緊急の患者を十分に対応することができます。今は人手不足のために、せっかく来られても他の病院へ行つていただくなっています。</p> <p>本院の医師の給料についてですが、確かにおっしゃるとおりで、どこの市立病院も民間病院に比べてかなり低くなり、同じような条件であれば、医師が民間病院に行きたがるので、大学の教授も頭を悩ましているのが現状です。</p>
○田口委員長	<p>他にご質問・ご意見はありませんか。</p> <p>野口委員。</p>
○野口委員	<p>計画について色々と取り組まれるということですが、ドクターが少ない中で、これだけのことができるのでしょうか。まずドクターを増やして様々なことをしていくのか。プログラム的なものもありますか。常勤のドクターが少ないことで問題が起きると聞いておりますが、一定の人数、例えば 30 人少ないのであれば、今年度はどのくらい増やしていくのか。また増やさなくともこの計画を進めるのか。この計画を進めるとドクターは更に忙しくなるのではないかと気になります。その辺りをどのように考えるのか教えてください。</p>
○高井病院事業管理者	<p>様々な取り組みですが、医師数によっても変わる部分もありますが、本院として効率的に病床をコントロールすることで、利益率を高めていくということなどを中心に説明させていただきました。そのことは、医師数の問題とは別に本院の取り組むべき課題として、今年度から早急に取り組んでいます。また医師数の確保については、一気に 30 人、確保となると難しいのですが、少しづつ増えている状況です。今年はターニングポイント</p>

	になる年度と考えていて、具体的な人数については申し上げられませんが、より強力に医師数の確保に向けた取り組みを進めているところです。
○野口委員	連携を進めるため、医院を訪問するということですが、私が住む近くの星ヶ丘医療センターは地域の医院と連携しているのがわかります。ひらかた病院は市内全域を訪問することになるのでしょうか。計画的に訪問するとのことだが、どの程度考えているのでしょうか。
○服部医療連携・相談室科長	今まで紹介いただいていた医療機関を改めて訪問することで、より紹介いただけるように、また紹介数が少なくなってきている場合は、ご意見等を伺い、安心して紹介いただけるよう改善できることを検討したいと考えております。また計画的に枚方市に近い交野市や高槻市にも一部訪問をしたいと考えております。
○野口委員	星ヶ丘医療センターの場合は、10人乗りくらいの車両を運行させるなどの努力をしている。ひらかた病院に行くことが難しい地域の方もいると聞きますので、そういうことも検討されてはどうか、意見として申し上げます。
○田口委員長	他にご質問・ご意見はありませんか。 福留委員。
○福留委員	先ほどの院長から患者数の増加している状況がある一方、常勤の医師数が77人と少ないため収益が上がらない状況をお伺いましたが、このまま患者数が増えた場合、医師数はこのままでよいのか、目標とする医師数はどのくらいを見込まれているのでしょうか。
○森田病院長	当院の規模からすると、およそ医師数は100人必要と考えております。非常勤ではなく、常勤の医師を確保したいと考えております。大学に対しても診療科に対して具体的な不足数を伝えて、理事長から各教授へ連絡していただいている状況です。
○福留委員	病床利用率がどのくらいでペイラインなのかが見えないことと、医師数が足りないことが、現在の病院の課題であるのではないかと思います。 先ほどの説明で、平成28年度に比べて平成29年度以降に救急搬送件数が増加した要因を教えてください。

○森田病院長	<p>平成27年度と平成29年度は同じくらいの救急搬送件数でしたが、それまでの3,200件から平成28年度に3,000件を下回りました。減少した理由ははつきりとはしていませんが、28年度途中に消防の方からも減少している状況について指摘もあったので、その辺りをしっかりと取り組み、平成29年度には回復した状況です。</p>
○福留委員	<p>枚方市内の近隣の病院の経営状況を分析されていれば教えてください。</p>
○森田病院長	<p>近隣については、なかなか教えていただけないが、私は全国の自治体病院協議会の常務理事であり、また日本病院会の常任理事として参加しております。枚方市内の病院でなく全国の病院の話ですが、公立及び民間病院の併せて約50%が赤字で、公立病院の約70%が赤字と、どこも非常に厳しい経営状況と聞いています。民間病院は、グループ経営で急性期だけでなく慢性期なども含めてやっと黒字が保つことができると聞いています。</p>
○田口委員長	<p>他にご質問・ご意見はありませんか。 岩本委員。</p>
○岩本委員	<p>確認のため、改めてお伺いしますが、どのあたりが厳しい状況と把握されていますか。</p>
○高井病院事業管理者	<p>大変厳しい状況とは、一つは収支状況です。現在決算中で、詳細な資料をご用意できませんが、平成28年度決算で約7億4千万円の単年度の純損失でしたが、それよりも好転するということで予算を組んでいたのですが、叶っていないということで、更に厳しさを増していると認識しております。</p> <p>病床稼働率についてはこの間80%を掲げて、これは収支状況を計画どおりに進捗させるための目標としておりましたが、72ないし73%ということで、目標から大きく下回っております。このことにより収入面での増加が計画どおりに進んでおらず、大きな課題であると考えおりますので、入院収益を上げていく取り組みを柱に据えております。</p> <p>先ほど堀井委員からのご意見についてですが、本院としましても市民の健康づくりに関する市民公開講座の開催というような取り組みも行いつつ、少し言葉足らずの面もございましたが「入院患者を増やす」とは、入院をされる予定の患者さんから選ば</p>

	<p>れる病院となるような取り組みを進めているということです。本市について消化器系の病院が弱いので、本院としては他の病院との機能分化を想定して、消化器系に力を入れていこうと考えています。</p>
○岩本委員	<p>これまでも議会等でも言われてきましたが、今も地域医療支援病院の取得を考えていますか。</p>
○森田病院長	<p>取得の要件が色々とあり、紹介率 50%、逆紹介率 70%の要件を確認中ですが、何とか今年は申請できるようにしたいと考えています。</p>
○岩本委員	<p>地域医療支援病院を取得することで、病院事業の方向性で足かせになるとか、デメリットはないでしょうか。</p>
○森田病院長	<p>基本的にデメリットはないと考えています。収益面で 5,000～6,000 万円の増加が見込まれますが、それよりも地域の医療機関との関わりが有るという証明、ステータスの方が大事と考えています。</p> <p>がん診療拠点病院を 1 年前に取得しましたが、収益面でのメリットよりも、病院としての医療の質を保証するメリットが大きいと考えています。</p>
○岩本委員	<p>取り組み自体が内部の意識改革など内向きのものになっているのではないかでしょうか。法律的なものがあるのなら別ですが、お客様に来てもらうような発信などの外向きの部分も強化してください。</p>
○山本経営管理室長	<p>情報発信についてですが、医療機関ですので過度な広告の方法に一定の制限はあるのですが、市民の皆様、地域の皆様から選ばれる病院になるために、積極的な情報発信に取り組んで行きたいと考えております。</p> <p>昨年度から院内に広報委員会を立ち上げて、病院のホームページも再整備しています。また、近隣にある関西外国语大学の学生と本院の職員とで様々なコラボレーション企画、イベントを通して積極的に情報発信しております。</p>
○岩本委員	<p>公立病院の格を保ちながら、是非外向けの発信をできるように、市の広報等とも連携してやっていただきたいと思います。</p> <p>次に D P C 係数についてですが、2015 年度に比べて今年度は、1.6 倍位に増加していますが、増加の理由とこれがどのくらい</p>

	の収益に変わっていくのでしょうか。
○森田病院長	DPC係数は様々な要素から成り立っていますが、上がった理由につきましては、制度の仕組上、全般的に上がっている病院が多いので、本院だけ何かしたから上がった訳でないという要素もあります。一年間の統計で係数が決まるので、これに取り組んで係数を上げるのは良くないとされています。今の診療形態を各病院のタイプによって係数が決まるようになっています。本院が、入院患者が増えているけれども収益が上がらない理由は、在院日数が短いのも原因です。DPC係数に在院日数を乗じて収益とするので、他院に比べて平均在院日数が短いため、収益は少ないということになります。
○岩本委員	今年、係数が上がったことは収益に関係はありますか。
○森田病院長	収益は上がることになります。
○岩本委員	先程も病床稼働率が72ないし73%ということですが、他の公立病院の中でも80%や85%の病院もあります。ただ民間病院と比べて、公立病院として情報公開しながら経営を行っていく難しさもあると思っていますが、先程も申しましたとおり、待っていてもお客様は来ないので、外向きの部分に一年間しっかりと取り組んでいただきたいと思います。
○田口委員長	他にご質問・ご意見はございませんか。 藤本委員。
○藤本委員	医師会の立場からですが、あまり公立病院の不採算部門を切つてもらうと、夜間の救急に専門の者が居ないというような不都合も出てきます。病床稼働率や救急応需率を上げるもらうことは大事だと思います。以前と比べて大分改善されていますが、地域連携室を通して受診を断われることがあります。現場の先生や職員がどのように考えているか、黒字化するにはどうすれば良いのかを教育していただければと意見として申し上げます。
○田口委員長	他にご質問・ご意見はございませんか。 山口委員。
○山口委員	今後の取り組みの中で、外部コンサルタントを導入されることですが、どのような経歴の方で今後の方向性について教え

	てください。
○山本経営管理室長	経歴についてですが、他の病院の経営改善に携わってこられまして、多くのコンサルタントから、本院の経営改善チームで調査もさせていただいた中で、実行支援、現場の各職場に目標設定させて成績を上げるとか、どういった取組事例かを調査検討させていただきました。各職場の方としっかりと関わっていただいて経営改善に繋げていきたいと考えております。
○山口委員	今回導入されるコンサルタントもそうですが、経験豊富な方に経営に入っていただくことが大事であると考えています。病院自体が大きな赤字を出しておらず、毎年の繰り出し金も大きい状況となっておりますので、この病院事業運営審議会で議論していきたいと思います。
○田口委員長	他にご質問・ご意見はありますか。 堀井委員。
○堀井委員	ひらかた病院の特長は何でしょうか。先程、院長が言われた様に、他の病院に比べて入院日数が短いということでしょうか。自営業、サラリーマンを問わず、一日も早く回復して職場へ帰れるなら、他の病院よりひらかた病院で入院ということでしょうか。
○森田病院長	おっしゃるとおりです。在院日数が長くなれば、収益が上がるとはわかっていますが、きちんと治療を行い、早く退院していただいているのは、一つの特長であると思います。また、比較的に入院日数が短い小児科が充実していることが挙げられます。他に外科を始めとして患者に負担のかからない低侵襲の手術を行っていることなども挙げられます。
○堀井委員	ひらかた病院の素晴らしいを広報で宣伝することが大切だと思います。過去、病院事業運営審議委員をしていた時、宇和島の市民病院へ視察に行きましたが、アメリカから臓器を取り入れて、移植をするということで、全国から患者が来る特色のある病院でした。ひらかた病院も何か特色のある取り組みを行つていただきたくことで、他からの患者も増えるのではないかと思います。
○田口委員長	他にご質問・ご意見はありますか。 無いようでしたら、本件はこの程度に留めます。

	<p>これより、案件第3「その他について」を議題とします。 それでは、事務局より説明を求めます。松村医事課長。</p>
○松村医事課長	<p>医療訴訟案件の和解について報告をさせていただきます。 今回、平成25年8月に本院が行なった診断に関する損害賠償請求事件について、裁判所から本院に対し、相手方に600万円を支払う旨の和解案が提示され、平成30年5月22日に和解が成立したところです。このことについては、6月定例議会において、ご報告いただきたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。</p>
○田口委員長	<p>これより、ご質問・ご意見をお受けします。 ご質問・ご意見はありませんか。</p>
	<p>ご質問・ご意見もないようですので、本件は説明の聴取にとどめます。</p>
	<p>他に報告事項等はありませんか。 服部医療連携・相談室科長。</p>
○服部医療連携・相談室科長	<p><第9回市民公開講座の開催について案内></p>
○田口委員長	<p>他に報告事項等はありませんか。 以上で、本日の案件はすべて終了しました。 これで本日の議事を終了します。 閉会にあたり、病院長からご挨拶をお受けします。 森田病院長。</p>
○森田病院長	<p><森田病院長の挨拶></p>
○田口委員長	<p>以上で、本日の会議を閉会します。 長時間にわたり、お疲れ様でした。</p>
	(以上)